

今も昔も変わらぬ地域の絆

30年近く続く世代間交流

古くて新しい
昔遊びの数々

校舎改築も受け継がれる伝統

豊川東部小

豊川市の東部小学校(竹田寛校長)では30年近く、世代間交流が続けられている。今月1日にも「めざせーむかしあそび名人」と題し、児童らが地元の老人会と交流。同校では校舎の改築中で、今月下旬にも新校舎が完成するが、伝統は変わらないまま継承されている。

(由本裕貴)



高齢者にあやとりの遊び方を学ぶ
ぶ女兒ら＝豊川市東部小学校で

1年生約80人は、地元の麻生田、三上、睦美地区の老人会の30人と、昔ながらの遊び体験を通して触れ合った。こま回し、あやとり、百人一首など、10種目を体験。子どもたちはお年寄りから遊びの方法やルール、上達するためのアドバイスを聞きながら挑戦した。携帯テレビゲームやスマートフォンが普及し、普段の生活ではなじみのない遊びばかりだが、子どもたちの好奇心は予想以上に強かった。

イベント開催が決まってから、生活科の授業で昔の遊びの予習を行ったが、

児童らは放課時間も夢中になって挑戦していたという。教務主任の宇井都子さんは「いつもは校庭に出て遊ぶ子ども、珍しく教室にいた」と振り返った。

代表児童は、老人会のメンバーに「もっと練習してうまくになりたい。また近所で皆さんと会えたらうれしい」と言葉を贈った。犯罪や交通事故から子どもたちを守る「地域の絆」を深める機会にもなった。

同校では毎年10月にも「伝承遊具の集い」が行われ、6年生が竹とんぼや凧(たこ)作りなど、難易度の高い昔遊びを体験している。

老朽化した校舎の改築工事が完了間近で、4月から真新しい教室での生活が待っている。長年ピンク色の外壁で慣れ親しまれた伝統の校舎は姿を消したが、定期的なタイムスリップが展開される同校では、文化や伝統は永遠に語り継がれる。